

第62回岡山市新型コロナウイルス感染症対策本部会議 議事概要

1 日時：令和4年9月22日（木） 16時～16時30分

2 場所：本庁3階 第三会議室

3 出席者：資料席次表参照

4 議事概要

[市長]

これから第62回となる本部会議を開催する。

本日の新規感染者は577名。第7波はピークアウトしたと考えられるが、感染者数は依然として多い状況。

政府は、9月26日から感染者の全数把握を見直す方針を明らかにした。

本日は、今後の対応について協議を行うため、みなさんに集まっていただいた。まずは各局から説明をお願いする。

(1) 新型コロナウイルス感染状況等について【保健福祉局】

[感染症対策担当局長]

・感染状況・療養状況

お盆をピークに感染者は減少傾向。ピーク時には80%を超えていた検査の陽性率も減少している。

・感染者の推移

本日の感染者は577人。週間平均の感染者は440.9人。第6波のピーク以下に減少している。

・発症日別の推移

発症日データから、発症日8/15～8/17、つまりお盆での感染がピークであったものと考えられる。その後の新たなピーク形成はなく、減少傾向が続いている。

・感染者の療養状況

最大で1万人を超えていた自宅療養者は5分の1まで減少。入院者も第7波ピーク時の3分の1以下となり、病床使用率も、最大65%から33%に減少。

・感染者の年代

2学期が始まり、若年者の割合は高くなっているが、感染者数全体が少なくなってきたのでどの年代も減少しているものと考えられる。

・受診・相談センター

令和4年1月以降の受診・相談センターへの問い合わせ件数。第7波では、ピーク時1日900件を超える問い合わせをいただき、曜日、時間帯によっては、つながり難くご迷惑をおかけした。現在は、問い合わせ件数も減少し、対応できている。

・全数把握の見直しに伴う対応

全数把握の見直しに伴う、変更点をまとめた。

まず、発生届の対象となるのは、①65歳以上、②入院を要する方、③重症化リスクがありコロナ治療薬の投与又は酸素投与が必要な方、④妊婦の方。

これまでと変更はなく、保健所が連絡をし、療養先の説明も行う。

また、濃厚接触者についても、これまでとおり、原則、陽性者の同居家族のみとし、陽性者の対応と変わらず、原則5日間の療養期間となっている。

変更となるのは、これまで発生届の約8割を占めていた①～④以外の方。医療機関から発生届の提出はなくなり、保健所からの連絡もないこととなる。

・発生届対象外の方のコロナ陽性から療養までの流れ

まずは、医療機関を受診し陽性者となった場合は、説明文書を、医療機関で説明してもらい、配布することをお願いした。

その後、感染者自ら、保健所に Web 若しくは電話で陽性者になったことの登録をしていただきたい。

なお、医療機関を受診せず、自ら抗原検査キットを用いた検査で陽性になった方は、岡山県陽性者登録センターに登録後、岡山市保健所にも登録いただきたい。

登録することで、食料品の申請、受診相談センターへの相談、宿泊療養への申込等がスムーズにできるようになっているので、可能な限り登録していただきたい。

登録いただくと、チャットアプリで医師に健康相談することも可能となっている。

・発生届対象外の方に行っていただく手続き等

自宅療養中の体調悪化時には、これまでとおり、原則、診断医療機関に電話連絡等で指示を仰いでいただきたい。また、どの医療機関を受診すればよいかわからない場合は受診相談センターへ連絡いただければ医療機関を案内する。

宿泊療養を希望する場合、食料品を希望する場合は、Webでの申込時に、併せてその旨を申し込んでいただきたい。ただし、宿泊療養については、すべての方の要望にお応えできるわけではなく、利用に関し、自立生活が可能な方であつ、自宅に重症化リスクの高い家族が居て隔離が困難な場合などの要件があるのでご注意ください。

・その他

医療機関で配布される説明書を資料に添付している。診断を受けた医療機関でこちらの用紙をもらい、自宅療養していただく。

保健所に登録の際には、この用紙に医療機関が診断をしたということを記載する欄があるので、この用紙は大切に保管していただきたい。

・保健所の体制

全数報告の見直しに合わせ、受診相談センターへの問い合わせが増えることが想定されるため、受診相談センターを強化する。

9月21日以降、人員を25名に増員。状況に応じ、電話回線を最大36回線まで増やす対応とする。

・ワクチンについて

オミクロン株対応ワクチンでの追加接種の開始について説明する。オミクロン株対応ワクチンの特徴は、新型コロナの従来株とオミクロン株（BA.1）に対応した2価ワクチン。現時点では一人1回の接種に限られるが、従来型ワクチンを上回る重症化予防効果と、発症予防、感染予防も期待でき、異なる2種類の抗原があることで、今後の変異株に対しても有効である可能性がより高いことが期待される。副反応は、従来型ワクチンと概ね同様の報告が出ている。

本日9月22日から予約を開始し、9月28日から順次接種を開始する。接種対象者は、1, 2回目の接種を完了した12歳以上のすべての住民となる。接種間隔は、今のところ前回接種から5か月以上となっている。

接種の順番は、岡山市では、対象者に対して十分なワクチン量が確保できる見込みであることと、段階的に拡大すると市民に混乱が生じる可能性があることから、12歳以上の、3, 4回目未接種の方全員を接種開始時から対象とし、10月中旬以降からは4回目接種済者の方へ拡大する予定。なお、既に感染された方は、体調が回復してから3か月経過後の接種が一つの目安となっている。

資料で、オミクロン株対応ワクチンの接種ができる方の接種時期をフローチャートで示している。また、1, 2回目接種がまだの方については、まずは従来株による接種後、オミクロン株対応ワクチンの接種が可能となる。選択できるワクチンや接種間隔は資料のとおり。市内の個別医療機関で、1, 2回目（初回接種）ができることとなっている。

接種券は、送付済みの3, 4回目の接種券が手元にある方はそれを利用していただく。紛失した方は、電子申請サービスやコールセンターで再発行の手続きをお願いする。

今後新たに接種対象になる方へは、国の定める接種間隔（今のところ5か月）経過後に郵送するが、国が接種間隔を短縮する可能性があると聞いているので、順次対応したい。4回目接種の対象外だった12歳以上17歳以下の方で、3回目接種から5か月経過した方へは、接種券を9月27日に一斉送付する予定。

接種場所は、これまでの接種と同様に、市内約400の医療機関と市集団接種会場等で実施する予定。

接種場所や使用するワクチンの種別等は市ホームページや県共通予約システム等でご確認いただきたい。

また、こういったオミクロン株対応ワクチンの接種については、現在市民の方向けのリーフレットを作成しており、10月上旬までには全ての世帯向けに郵送する予定。

オミクロン株対応ワクチンは、重症化予防、発症予防にも効果があるとされていることから、接種券が届いている方は、できるだけ速やかに接種の検討をお願いしたい。

小児接種は、新たなエビデンスが得られたことから、3回目接種及び小児接種の努力義務化が適用されているので、小児接種についても、接種の検討をお願いしたい。

インフルエンザワクチンは、新型コロナワクチンとの接種間隔に関する規定がなくなり、同時接種も可能となった。先日発表されたアドバイザリーボードによると、季節性インフルエンザの例年よりも早い流行と、新型コロナウイルス感染症との同時流行の懸念が示されているので、インフルエンザワクチンの接種についてもご検討いただきたい。

[保健所長]

各局からのご支援ありがとうございました。引き続き、対応変更には万全の準備をしているところ。

[市長]

各部署は応援体制を履行してもらって、本当にありがとうございます。

(2) 岡山市主催行事等の開催に関する方針について【危機管理室】

[危機管理監]

今回の緩和については、国の基本的対処方針の変更に伴うもの。変更内容は、感染防止安全計画を策定するイベント、それ以外のイベント共に、従来の人数上限と収容率の考え方を基本としたうえで、「同一イベントにおいて、「大声あり」と「大声なし」のエリアを明確に区分して開催する場合」には、収容率は「大声あり」のエリアでは50%、「大声なし」のエリアでは100%といった形で、開催することが可能となった。

この緩和については、本日以降開催のイベントに適用したいと考えている。

(3) 今後の学校教育活動について【教育委員会】

[教育長]

現在、新規感染者数は、依然高い水準にあるが、ウィズコロナを前提とした社会経済活動と同様に、子どもたちの成長にとって必要な経験となる修学旅行や運動会など、学校教育活動を継続させ、児童生徒の学びを保障することが重要であると考えている。

については、潜伏期間が短いオミクロン株の特徴を踏まえ、保健所と協議した結果、学級閉鎖の基準を緩和したいと考えている。

具体的には、学級内で感染者が確認された場合の対応として、感染拡大の有無を判断する観察期間を4日間から2日間とする。また、観察期間中に新たな感染者が確認され、感染拡大の恐れがあると判断した場合の学級閉鎖については、4日間から3日間とする。

なお、今後の学校教育活動については、これまでと同様に、基本的な感染症対策の徹底を前提に、各学校の実情や実態に応じた取組を可能とすることを継続する。

最後に、家庭への協力をお願いにつきましても、継続する。

(4) コロナ陽性者発生時の今後の対応について【岡山っ子育成局】

[岡山っ子育成局長]

まず、放課後児童クラブであるが、市立小中学校の変更にあわせて同様の対応をとる。

次に、就学前施設であるが、家庭保育依頼後3日以内に次の陽性者が出るケースが多いことから、発症までの期間が短いオミクロン株の特性を踏まえ、家庭保育依頼を行う期間を現行の4日間から3日間に短縮する。

また、家庭保育依頼を行う判断については、引き続き1人目の陽性者確認後にクラス休園、全休園等の家庭保育依頼を行うことを基本とする。

[市長]

その他、追加して報告することはあるか。

[危機管理監]

オミクロン株対応ワクチンの追加接種はかなり複雑だが、市民に対する広報はどうか。

[感染症対策担当局長]

ホームページ等の改修をはじめ、10月の上旬には、全戸に向けて説明の案内文を送付できるよう準備しているところ。準備でき次第送付する。

5 本部長まとめ

新規感染者数は減少が続いており、1万人を超えていた自宅療養者も4分の1程度に減少している。最大65%を超えていた病床使用率も、現在35%程度まで減少した。

9月26日から、全国的にコロナ感染者の全数把握が見直される。これまで、医療機関からの発生届によって、すべての感染者を保健所で把握していたが、今後、医療機関からの発生届は、65歳以上の方、入院を要する方などに限定される。それ以外の方についても、保健所へ登録していただくことにより、これまで通りのスムーズな医療・行政等の対応が可能となる。

保健所への登録の有無に関わらず、引き続き、全ての感染者は自宅待機が必要であることに変わりはない。自宅療養中に体調が悪化した場合は、これまでどおり医療機関もしくは受診・相談センターに電話でご相談いただきたい。

スムーズに医療につなげるためにも、また適切に行政サービスを行うためにも、感染された方は、速やかに保健所に登録をお願いしたい。

発症までの期間が短いオミクロン株の特性を踏まえ、市立小中学校の学級閉鎖期間及び保育園等の休園期間を4日間から3日間に短縮する。

岡山市におけるオミクロン株対応ワクチンの接種を9月28日から順次開始する。接種対象者は、2回目接種を完了し、5か月が経過した12歳以上のすべての住民の方。

オミクロン株対応ワクチンは、今までのワクチンを上回る重症化予防効果や、発症予防効果・感染予防効果も期待できる。すでに送付済みの接種券で接種が可能なので、速やかな接種をお願いする。

接種券を紛失した場合は再発行が可能なので、市ワクチン接種コールセンターにお問い合わせいただきたい。

これから対象となる方へは、接種可能な時期に接種券が届くので、届き次第、接種をお願いします。

今回は接種できる時期などがわかりにくくなっているので、10月上旬を目途に全世帯にリーフレットを配布し、ホームページなどでも必要な情報をお届けする。

ワクチンの量と接種体制は整っているので、市民の皆様は、ご自身の接種時期などをご確認いただき、できるだけ早い接種をお願いします。

第62回岡山市新型コロナウイルス感染症対策本部会議

日 時：令和4年9月22日（木）

16時～16時30分

場 所：本庁3階 第三会議室

次 第

1 開 会

2 議 題

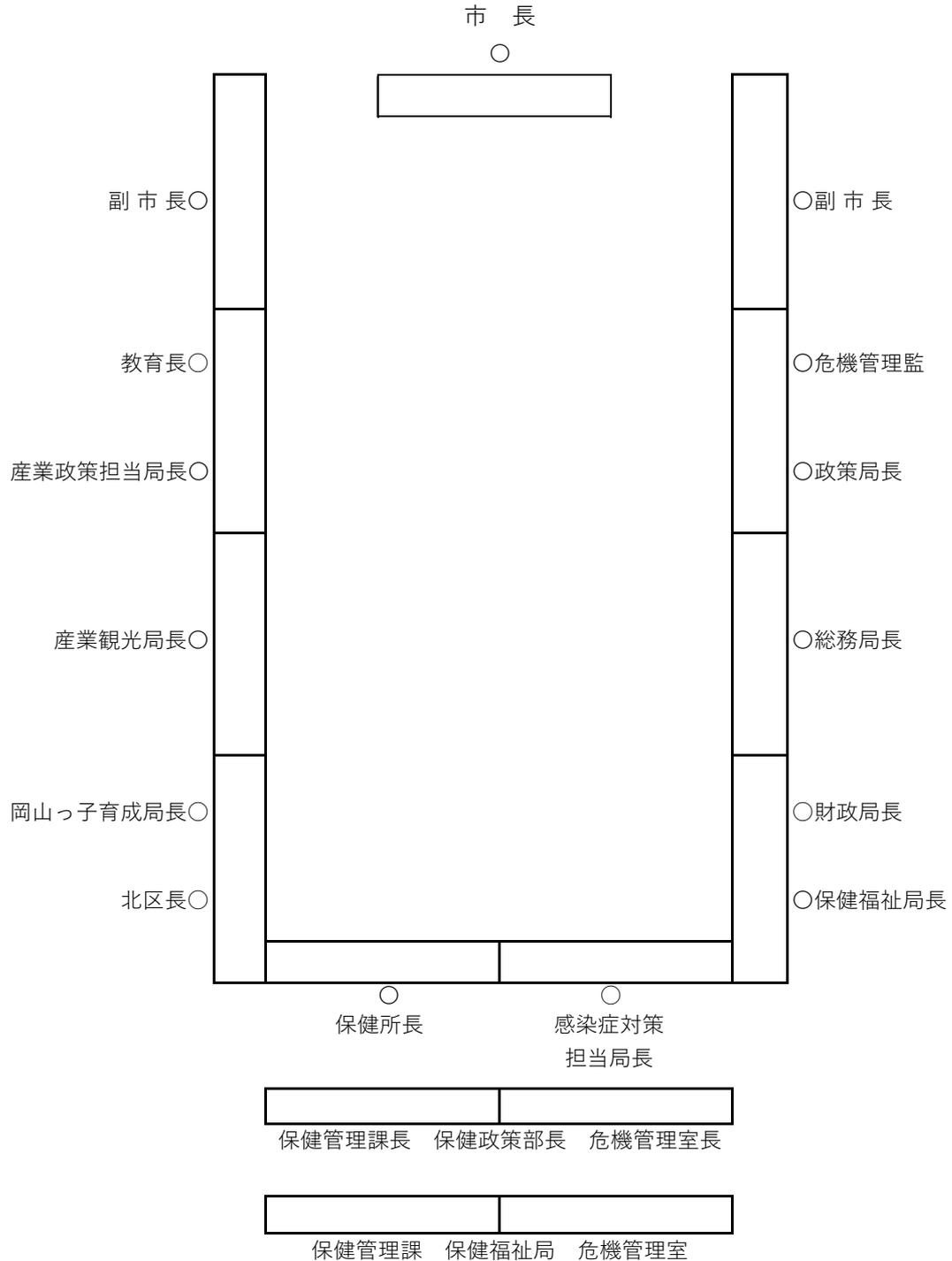
(1) 現時点における対応状況等について担当局から報告

- ① 保健福祉局
- ② 危機管理室
- ③ 教育委員会
- ④ 岡山っ子育成局

(2) その他

3 閉 会

第62回 岡山市新型コロナウイルス感染症対策本部会議
配席図 (R4.9.22)



(報 道)

【岡山市】感染状況・療養状況の分析(令和4年9月18日時点)

令和4年9月22日
第62回新型コロナウイルス
感染症対策本部会議資料
保健福祉局

区分	モニタリング項目 過去1週間合計(月曜日～日曜日)		前回の数値 (9月11日時点)	現在の数値 (9月18日時点)	前回との 比較
感染状況	①新規陽性者数	総数 (人口10万人当たり)	4,359人 (622.7人)	3,779人 (539.9人)	↘
		60歳以上 (総数に占める割合)	580人 (13.3%)	418人 (11.1%)	↘
	②区別 新規陽性者数	北区	174人 (判明分のみで)	112人 (判明分のみで)	—
		中区	55人 (判明分のみで)	38人 (判明分のみで)	—
		東区	43人 (判明分のみで)	39人 (判明分のみで)	—
		南区	75人 (判明分のみで)	76人 (判明分のみで)	—
	③新規陽性者における 接触歴不明者	数	98人 (判明分のみで)	85人 (判明分のみで)	—
割合(③/①)		53.0% (判明分のみで)	56.7% (判明分のみで)	—	
④検査数と陽性率(速報値)		7,489件 (58.2%)	集計中	—	
療養状況	⑤入院患者数		138人	78人	↘
	⑥宿泊療養者数		32人	27人	↘
	⑦自宅療養者数		3,331人	2,645人	↘
	⑧療養者数(人口10万人当たり)		500.1人	392.9人	↘

総括コメント

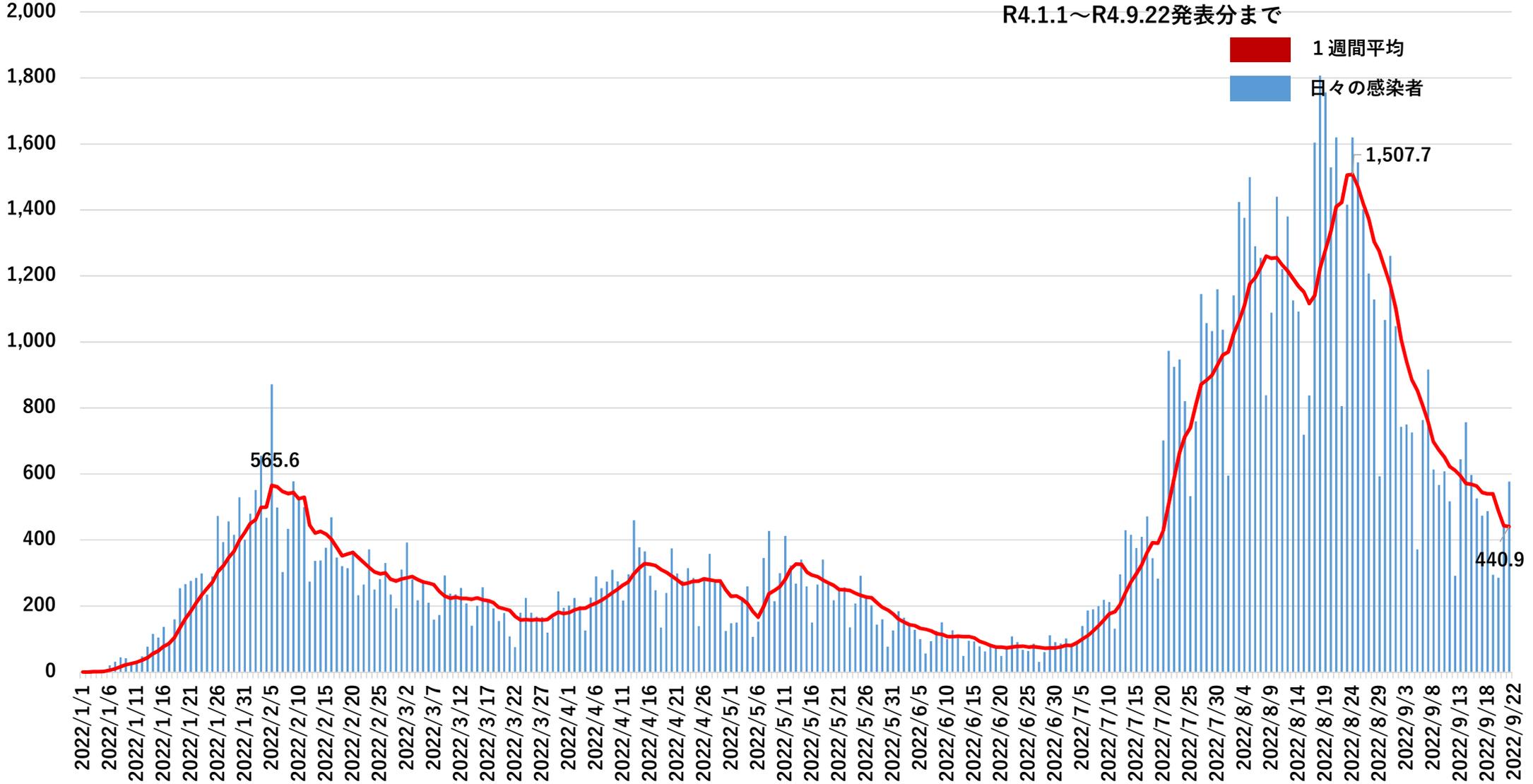
**感染縮小の兆候があるが
引き続き、警戒が必要**

新規陽性者は人口10万人当たり539.9人と減少。
10代以下が占める割合が増加しているが全年代で感染者数は減少。
症状がある場合は外出を控える、屋内でのマスク、手指衛生、換気の徹底、ワクチン接種、大人数での会食を避けるなど、日常生活の中、個人で行える感染対策の継続を。特に、高齢者や基礎疾患のある方への感染を防ぐ行動を。

警戒レベル



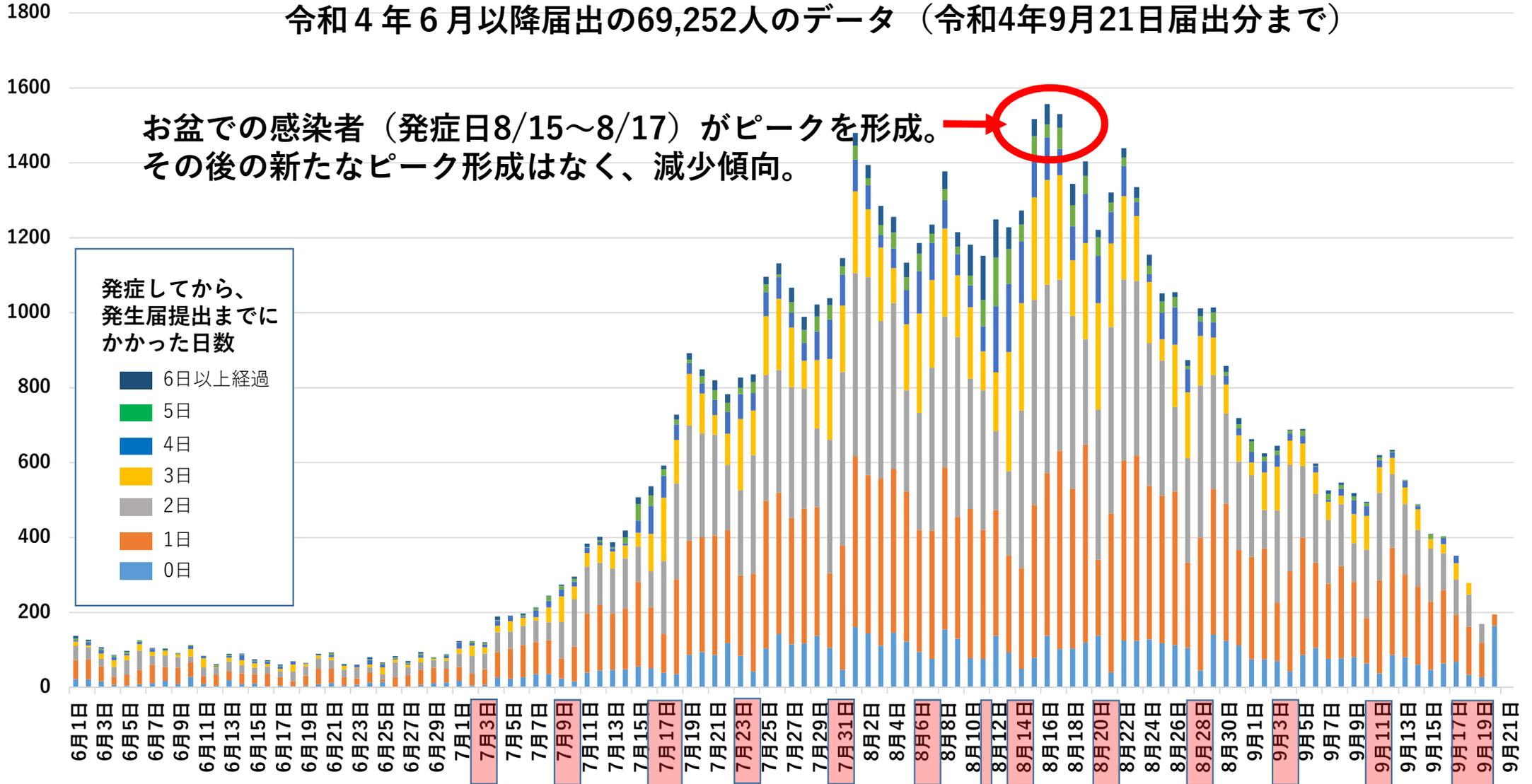
これまでの感染者の推移



発症日別の感染者の推移(概要一覧)

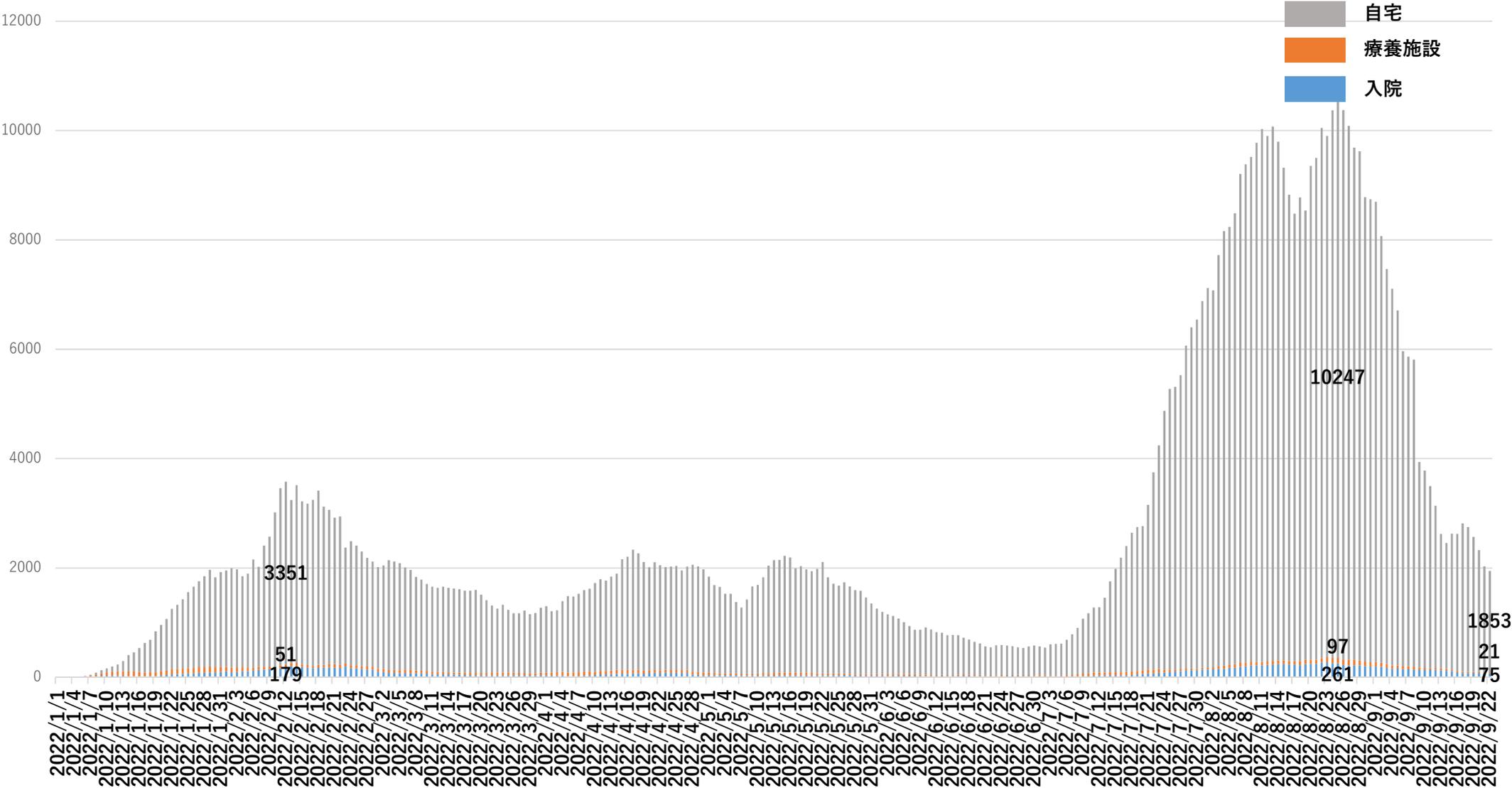
令和4年6月以降届出の69,252人のデータ（令和4年9月21日届出分まで）

お盆での感染者（発症日8/15～8/17）がピークを形成。
その後の新たなピーク形成はなく、減少傾向。



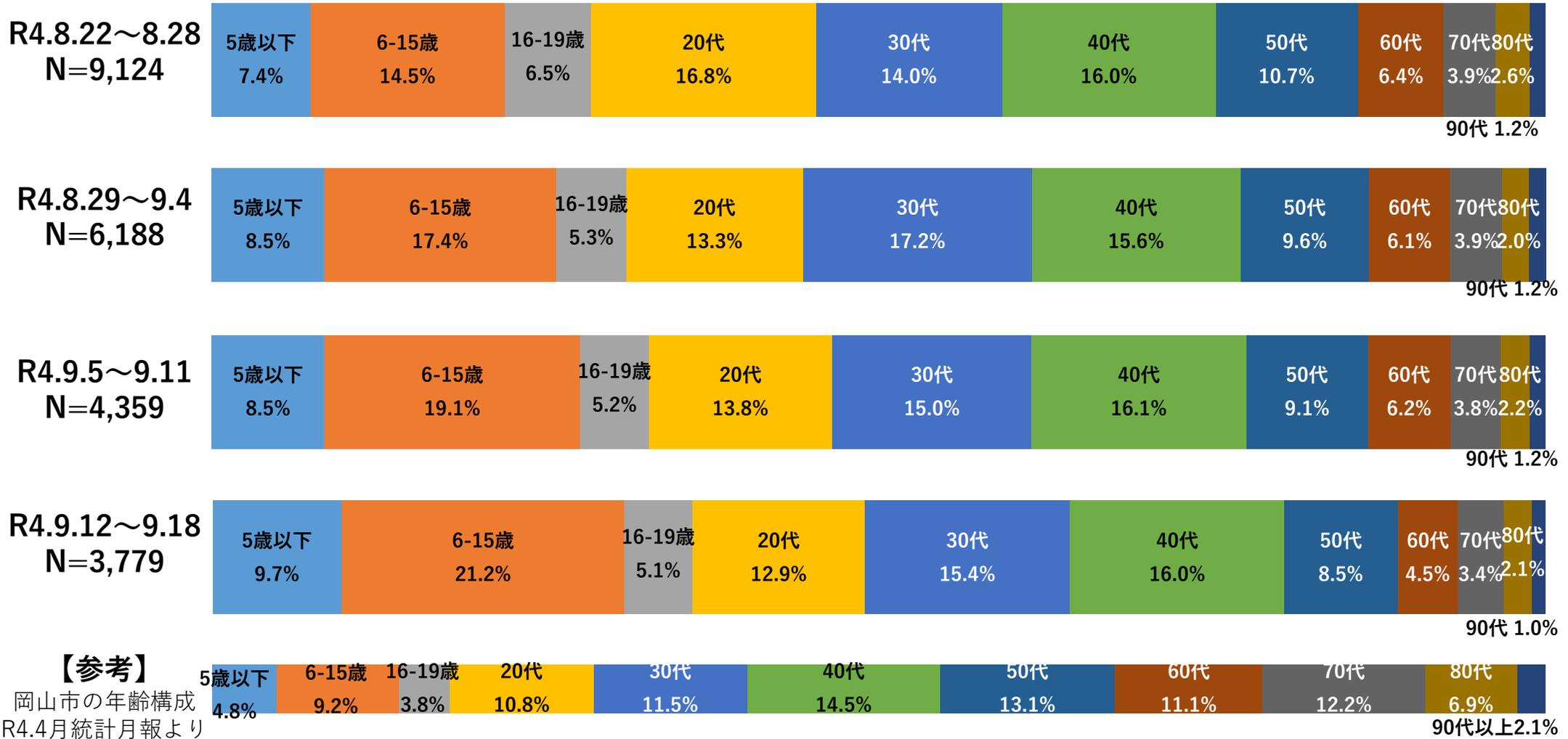
感染者の療養状況（発表日別）

R4.1.1～R4.9.22発表分まで



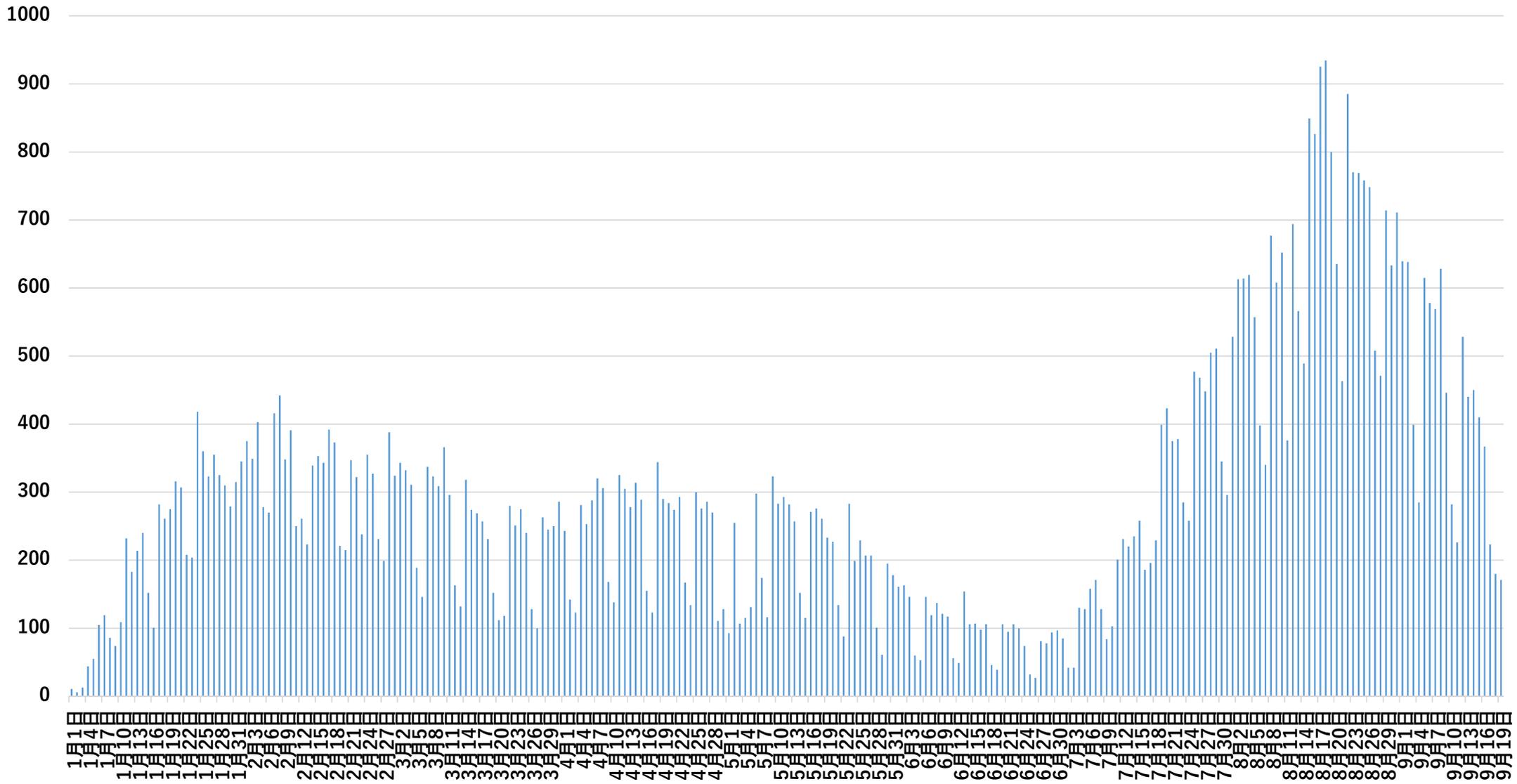
1週間毎の感染者の年代の比較

年少者の割合は増加していますが、どの年代も感染者は減少しています。



受診・相談センターへの問い合わせ

R4.1.1~R4.9.19まで



9月26日（月）以降の全数把握の見直しに伴う対応

対象者	医療機関からの発生届	保健所からの連絡	療養先(待機先)	療養期間(待機期間)	必要事項の説明	保健所からの療養証明
【陽性者】 ①65歳以上の方 ②入院を要する方 ③重症化リスクがあり、コロナ治療薬の投与又は酸素投与が必要な方 ④妊婦	あり	あり	発生届を基に、 保健所が判断 し、療養先 ・入院 ・宿泊療養 ・自宅を決定	原則、 発症日 (無症状の場合は検体採取) から7日間 (8日目解除)	診断医療機関及び保健所	する
【陽性者】 ①～④以外の方	なし	なし	自宅 ※宿泊療養を希望する場合は、自ら電子申請サービス等で申請し、保健所で判断	原則、 発症日 (無症状の場合は検体採取) から7日間 (8日目解除)	診断医療機関 若しくは岡山県陽性者登録センター	しない
【濃厚接触者】	—	なし	自宅	原則、 5日間	※陽性者へ書類を配布	—

発生届対象外の方のコロナ陽性から療養までの流れ

(1) 医療機関を受診する場合



医療機関が、療養期間等必要事項を説明

患者自ら保健所へ登録

携帯から登録



or

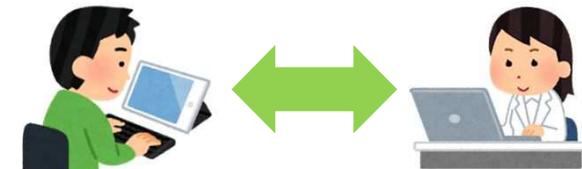
受診相談センターへ電話
086-803-1360

(1)(2)いずれの場合も登録をお願いします



登録することで・・・

- 1) 食料品の申請や、受診相談センターへの相談、医療機関の受診などがスムーズに行えます。
- 2) 医療機関受診時に、保健所から送信されたSMS等を提示すると、コロナに係る医療に限り、自己負担なしで受診できます。
- 3) チャットアプリで、医師に健康相談することができます。
※別途アプリのインストールが必要です



(2) 自ら検査キットで検査する場合



登録センターから、療養期間等必要情報の掲載されているURL等をお知らせ

・相談先
・療養期間の考え方
etc

岡山県陽性者登録センター
086-206-3740
受付時間：9時00分～17時00分
(土日祝日を含む)

- 16～64歳で重症化リスク等のない方が対象
- 自ら検査キットを購入する場合は国が承認したキット※を使いましょう。
※【体外診断用医薬品】又は【第1類医薬品】と表示されています。

発生届対象外の方に行っていただく手続き等

体調悪化時の対応【変更なし】

患者自ら、医療機関若しくは受診・相談センターに電話で相談ください。

- ・陽性診断を受けた医療機関
- ・かかりつけ医



わからない場合

受診相談
センター

紹介

いずれかを医療機関に提示
●保健所からの登録受付済のSMS
●医療機関で受け取った説明書類



電話086-803-1360 平日：9:00～21:00、土日祝：9:00～17:00

宿泊療養を希望する場合

※宿泊療養については自立生活が可能なのか、自宅に重症化リスクの高い家族が居り、隔離が困難な場合などの要件があります。

患者自らお申込みください。保健所が症状や家族構成等を聞き取り調査し決定します。
登録はこちらから↓



登録の際に申込



受診相談センター



宿泊



自宅



食料品を希望する場合

患者自らお申込みください。保健所が療養期間に応じた食料品等を自宅へ配送します。
登録はこちらから↓



登録の際に申込



受診相談センター



PCR 検査等を受検された方へのお知らせ

検査の結果、「陽性」となった場合は、以下①②をご確認いた

だき、人への接触を避けるよう、自宅待機をお願いします。

- ① (1) 65歳以上の方 (2) 入院を要する方 (3) 妊婦
(4) 重症化リスクがあり、かつ、コロナ治療薬若しくはコロナ罹患により
酸素投与が必要な方

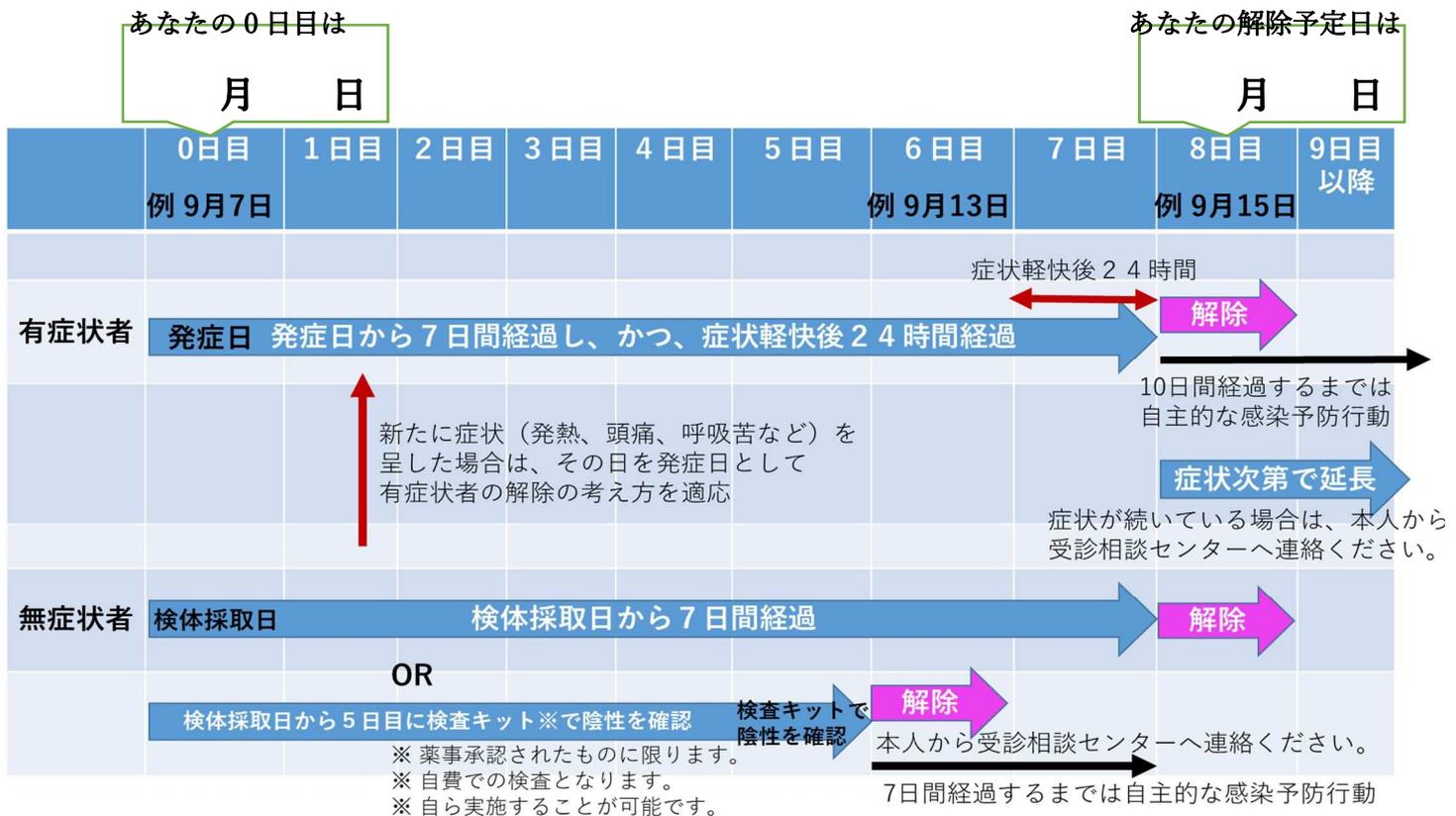
(1) ~ (4) に該当する方には保健所から連絡があります。

※発生届を受理した翌日までに連絡します。

- ② ①以外の方は、人への接触を避けて、自宅療養をお願いします。

※保健所からの連絡はありません。

(1) 自宅療養期間について



※療養期間終了に際し、保健所からの連絡はありません。

※療養期間の詳細情報はこちら。 <https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000041083.html>

(裏面あり)



(2) 気になる症状があれば、診断医療機関か受診相談センターへ連絡

- ・ 1日2回の検温及び症状確認をお願いします。(保健所に報告は不要)
- ・ 体調悪化時は医療機関か、医療機関がわからなければ受診相談センターへ連絡をください。
- ・ 急激な呼吸困難など一刻を争うと判断した場合には、救急搬送の要請(119番)をお願いします。

(3) 療養期間中の外出自粛について

有症状の場合で症状軽快から24時間経過後又は無症状の場合には、生活必需品の買い出しなど必要最小限の外出は可能です。その際は、公共交通機関を使用せず、マスクを着用するなど、自主的な感染予防対策を徹底してください。

(4) 陽性者の登録について

貴方の基本情報などを、入力していただくと陽性者として登録され、受診相談センターへの問合せの際などにスムーズな対応が可能になります。

●併せて宿泊療養を希望される方

登録いただいた後、保健所が聞き取りを行い宿泊療養が可能か否かを決定します。

※宿泊療養については、自立生活が可能かどうか、自宅に重症化リスクの高い家族が居て隔離が困難な場合などの要件があります。

●併せて食料品を希望される方

食料品は、同居家族(濃厚接触者を含む。)やネットスーパーを利用するなど、原則はご自身での調達・確保をお願いします。ご自身でも(3)のとおり買い出しは可能です。

こちらから登録 ⇒岡山市電子申請サービス

https://s-kantan.jp/city-okayama-okayama-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=27014



(5) 不安や不明な点、お困りのことがありましたら、

岡山市新型コロナウイルス受診相談センター

(電話 086-803-1360 平日：am9～pm9、休日：am9～pm5) へご連絡ください。

その他、自宅療養についての詳細はこちら。

<https://www.city.okayama.jp/kurashi/category/1-13-14-2-0-0-0-0-0-0.html>



様

受診日 令和 年 月 日

新型コロナウイルス感染症について、診断結果は、【陽性・陰性・後日連絡】となります。
なお、あなたは発生届の【届出対象・届出対象外】に該当します。

受診医療機関:

保健所の体制について

全数把握の見直しに合わせ、患者対応人員・回線数を見直すとともに、受診相談センターの人員を増員。

	9月21日以降	8月1日時点	【参考】 第6波最大
対応人員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者対応 76人 ・ 受診相談センター 25人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者対応 164人 ・ 受診相談センター 14人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者対応 155人 ・ 受診相談センター 15人
電話回線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者対応 65回線 ・ 自宅療養対応 9回線 ・ 受診相談センター 25回線 <p>(最大36回線まで可能)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者対応 129回線 ・ 自宅療養対応 14回線 ・ 受診相談センター 14回線 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者対応 89回線 ・ 自宅療養対応 50回線 ・ 受診相談センター 12回線

接種の目的・効果・安全性

【目的等】

現在、感染の主流となっているオミクロン株及び今後の変異株に対する有効性が期待できることから、重症化予防、感染予防、発症予防を目的に接種を行うもの

【オミクロン株対応ワクチンの種類及び特徴】

(種類) ファイザー社製ワクチン(12歳以上)、モデルナ社製ワクチン(18歳以上)

(特徴) ①新型コロナウイルスの従来株とオミクロン株(BA.1型)に対応した2価ワクチン

②追加接種にのみ使用が可能で、現時点では一人1回の接種に限る

【効果】

①従来型ワクチンを上回る重症化予防効果及び、短い期間である可能性はあるが発症予防効果や感染予防効果が期待

②異なる2種類の抗原があることにより、誘導される免疫も、より多様な新型コロナウイルスに反応するため、今後の変異株に対して有効である可能性がより高いことが期待

(参考) オミクロン株に対する従来株ワクチンとの中和抗体価の比較 ファイザー社製 1.56倍 モデルナ社製 1.75倍

【副反応】

ファイザー社及びモデルナ社の2価ワクチンの薬事承認において、どちらのワクチンも従来型ワクチンとおおむね同様の症状

<接種後7日間に現れた症状>

発現割合	症 状	
	ファイザー社	モデルナ社
50%以上	注射部位疼痛	注射部位疼痛、疲労
10～50%	疲労、筋肉痛、頭痛、悪寒、関節症	頭痛、筋肉痛、関節痛、リンパ節症、悪寒、悪心・嘔吐
1～10%	下痢、発赤、腫脹、発熱、嘔吐	紅斑・発赤、腫脹・硬結、発熱

オミクロン株対応ワクチンでの追加接種開始について

岡山市の接種方針

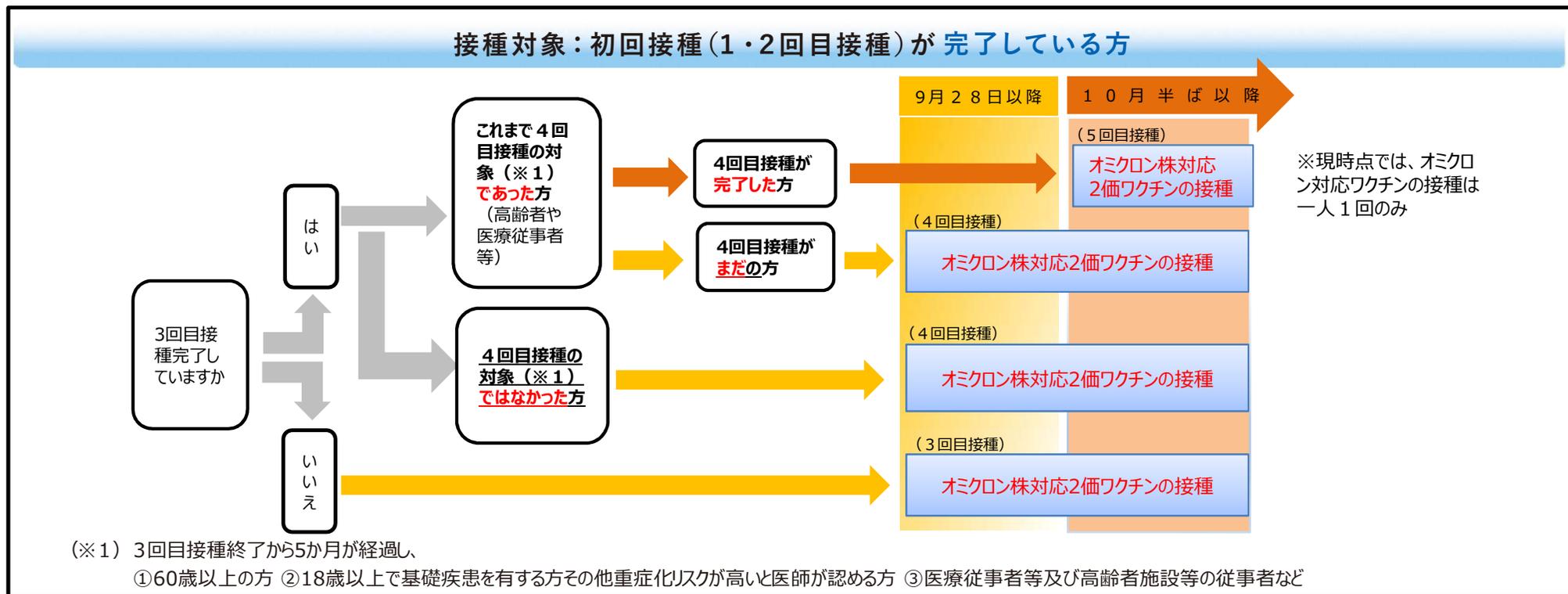
- (1) 開始日：令和4年9月22日（木）予約開始、**9月28日（水）以降順次接種開始**
- (2) 接種対象者：**初回接種（1・2回目）を完了した12歳以上の全ての住民**
- (3) 接種間隔：前回の接種から少なくとも5か月以上。ただし、今後、接種間隔が短縮される可能性あり
- (4) 接種の優先順位等

	国の指針	岡山市の方針案
9月28日以降	① 現行の4回目接種対象者のうち未接種者 ・60歳以上の者 ・「基礎疾患を有する者」「重症化リスクが高いと医師が認める者」 ・医療従事者等及び高齢者施設等の従事者 ----- ② ①の完了が見込まれれば、配送ワクチンの範囲内で、初回接種が終了した者の接種に移行 （例）社会機能を維持するため必要な事業の従事者や年代別など ※移行する際の対象者については、地域の実情に応じて対応可能	3・4回目未接種者全てを対象に、順位付けをせず一斉開始 【理由】 ・9月に配送されるワクチン量が、60歳以上の4回目未接種者分を大幅に上回るため ・接種券を送付済みであり、段階的に接種対象者を拡大することで、市民や医療機関に混乱をきたす恐れがあるため 【参考】 <9月～10月ワクチン配送量> ファイザー社151,494回分、モデルナ社9,700回分 計161,194回分 <60歳以上4回目未接種者> 約7.3万人 <3・4回目接種券発送済の未接種者> 約20万人 ※年内に希望するすべての方が接種可能な量のワクチンが供給
10月中旬以降	③上記①②以外の初回接種を完了した者	・3・4回目未接種すべてを対象に引き続き接種を継続 ・4回目接種済者

- (5) 新型コロナ感染症罹患者の方のワクチン接種について
 - 感染した方のワクチン接種については、体調が回復してから3か月が一つの目安となっており、その場合も前回接種から規定の接種期間が経過していることが必要
 - 前回接種から必要な接種期間が経過している方であれば、回復後ただちに接種することも可能

- (6) 制度周知：接種対象者等の概要については、市ホームページや公式SNSによる周知に加え、リーフレットの全戸配布を実施

12歳以上で初回接種（1・2回目接種）が完了している方の接種時期について



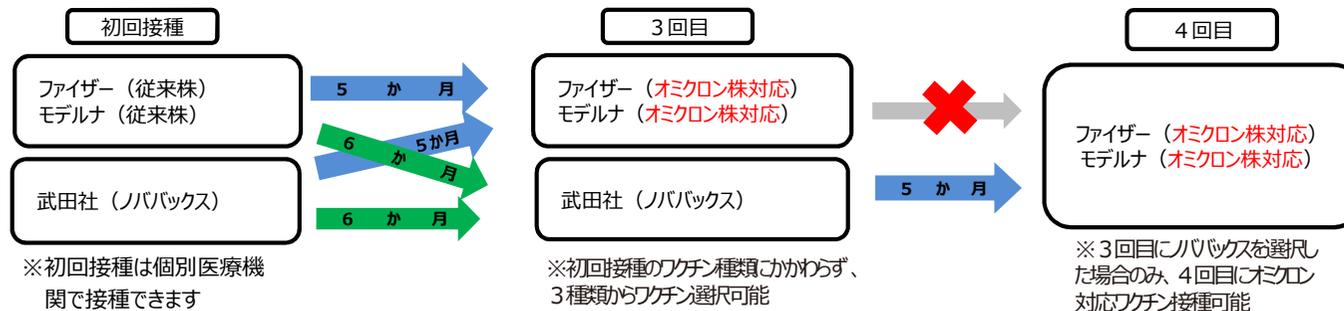
12歳以上で初回接種（1・2回目接種）がまだの方について

○オミクロン株対応ワクチンを接種するには、従来型ワクチン（1価ワクチン）による初回接種（1・2回目接種）を完了する必要があります（※）

①従来型のファイザー社／モデルナ社ワクチンは、今後、国からの供給が限定的になるため、早期の接種をおすすめします

②武田社（ノババックス）ワクチンは、初回（1・2回目）及び3回目に使用することができます。一般的に副反応が低いと言われています

○今から初回接種（1・2回目接種）をする方の使用するワクチン及び接種間隔について



※オミクロン株対応ワクチンは、追加接種としての臨床試験がされており、追加接種の用法のみで薬事承認がなされていることから、現時点では初回接種（1・2回目接種）では使用できません

小児接種（5歳～11歳）のワクチン接種について

【接種の努力義務化について】

（2022年2月：小児接種開始時）

小児におけるオミクロン株の感染状況が確定していないこと
オミクロン株に対してのエビデンスが十分でないこと

➡ 努力義務の適用なし

（2022年9月）

小児におけるオミクロン株の感染拡大の状況

オミクロン株に対するエビデンスの集積（発症予防効果の中等度の有効性、入院予防効果の接種後2か月で80%の有効性）
安全性に関する追加の情報（米国のデータ分析で安全上の懸念なし、日本の副反応報告において安全性に係る懸念なし）

➡ 努力義務化の適用

小児接種についても、接種の検討をお願いしたい

【3回目接種について】

○効果

新型コロナワクチンを受けることで、新型コロナに感染しても症状が出にくくなります

5～11歳の子どもに対するワクチンの追加接種後は、オミクロン株を含む新型コロナウイルスに対する中和抗体価(※)が上昇します
また、時間経過とともに低下した初回接種による発症予防効果が、追加接種により回復すると報告されています

(※) ウイルスの感染力や毒素の活性を中和できる抗体の値のこと

○副反応

5～11歳の子どもに対する3回目の接種後7日以内の副反応は、1・2回目接種の後と比べると、おおむね同様の症状が見られ、2回目接種時を上回るリスクは報告されていません

■ 5～11歳の接種後7日間に現れた症状発現率の比較（ファイザー社ワクチンを使用）

報告割合	接種後の症状（2回目接種後→3回目接種後の症状の発現率）
50%以上	疼痛(72.2→73.9%)
10～50%	疲労(46.6→45.6%) 頭痛(30.1→34.0%) 筋肉痛(12.5→18.3%) 発赤(16.5→15.6%) 腫脹(14.0→16.4%) 悪寒(10.3→10.5%)
1～10%	発熱(8.8→6.7%) 関節痛(5.5→6.7%) 下痢(6.5→4.9%) 嘔吐(1.8→2.4%)

出典:特例承認に係る報告書

インフルエンザワクチンとの接種間隔について

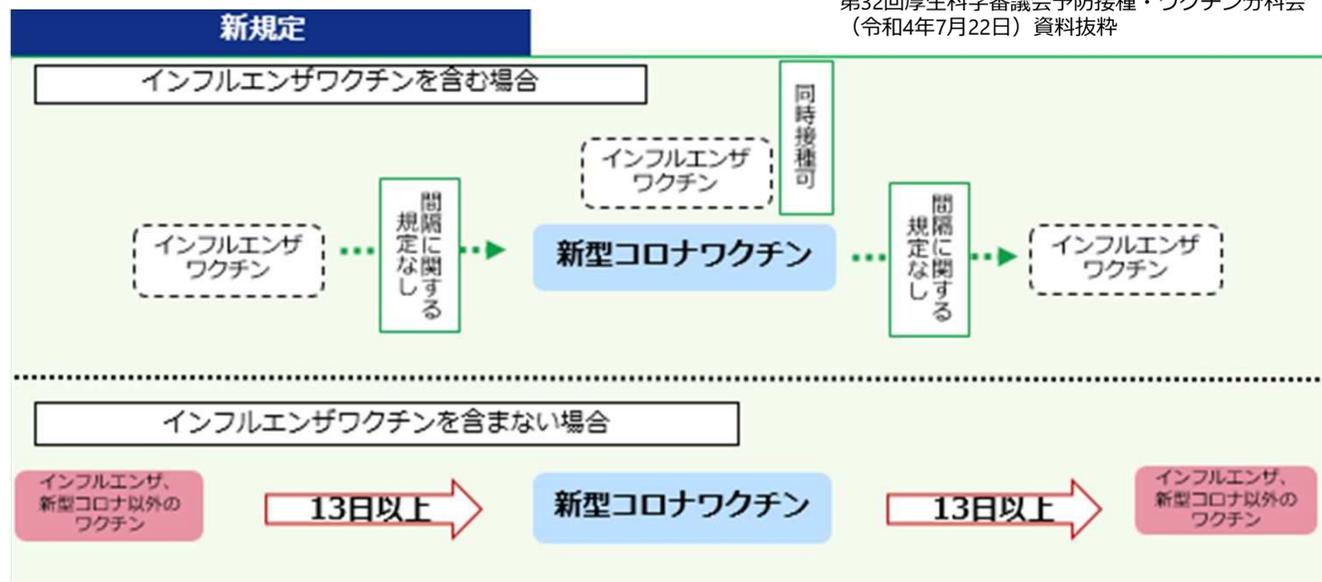
○インフルエンザワクチンとの接種間隔

インフルエンザワクチンは、新型コロナワクチンとの接種間隔の規定がなくなったことから、同時接種も可能となりました。

※接種場所などについては、市ホームページ等をご覧ください

○インフルエンザ以外の予防接種は、原則として新型コロナワクチン接種と前後13日以上の間隔が必要

第32回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会
(令和4年7月22日) 資料抜粋



【参考】新型コロナワクチン接種数（1・2回目実績）について

新型コロナワクチン接種数（1・2回目実績）について

令和4年9月20日時点入力済み数値（保健管理課集計）

区 分	①対象者数 (人口)	②1回目 接種回数	対人口進捗率 =②/①	③2回目 接種回数	対人口進捗率 =③/①
【高 齢 者】 65歳以上	188,000人	175,381人	93.3%	174,833人	93.0%
60歳以上65歳未満	39,000人	35,585人	91.2%	35,498人	91.0%
50歳以上60歳未満	92,000人	80,198人	87.2%	79,937人	86.9%
40歳以上50歳未満	102,000人	86,774人	85.1%	86,392人	84.7%
30歳以上40歳未満	81,000人	65,827人	81.3%	65,394人	80.7%
20歳以上30歳未満	77,000人	62,223人	80.8%	61,592人	80.0%
12歳以上20歳未満	53,000人	40,362人	76.2%	39,962人	75.4%
5歳以上12歳未満	45,000人	9,183人	20.4%	8,522人	18.9%
合 計	677,000人	555,533人	82.1%	552,130人	81.6%
【5歳未満を含む全人口に対する接種率】	705,000人	555,533人	78.8%	552,130人	78.3%

1 接種回数の数値はワクチン接種記録システム（VRS）のデータによる

2 対象者数はR4.1.1時点の住基人口、年齢区分はR4.1.1時点の年齢による。なお、対象外の5歳未満は28,000人

【参考】新型コロナワクチン接種数（3回目実績）について

新型コロナワクチン接種数（3回目実績）について

令和4年9月20日時点入力済み数値（保健管理課集計）

区 分	①対象者数 (人口)	②対象者数 (接種券送付済者)	③3回目接種回数	対人口進捗率 =③/①	対接種券送付者進捗率 =③/②
【高 齢 者】 65歳以上	188,000人	174,631人	167,231人	89.0%	95.8%
60歳以上65歳未満	39,000人	35,432人	32,678人	83.8%	92.2%
50歳以上60歳未満	92,000人	79,915人	67,505人	73.4%	84.5%
40歳以上50歳未満	102,000人	86,533人	64,004人	62.7%	74.0%
30歳以上40歳未満	81,000人	65,400人	42,816人	52.9%	65.5%
20歳以上30歳未満	77,000人	62,355人	38,110人	49.5%	61.1%
12歳以上20歳未満	53,000人	39,586人	21,734人	41.0%	54.9%
5歳以上12歳未満	45,000人	3,048人	117人	0.3%	3.8%
合 計	677,000人	546,900人	434,195人	64.1%	79.4%
【5歳未満を含む全人口に対する接種率】	705,000人	-	434,195人	61.6%	-

1 接種回数の数値はワクチン接種記録システム（VRS）のデータによる

2 対象者数はR4.1.1時点の住基人口、年齢区分はR4.1.1時点の年齢による。なお、対象外の5歳未満は28,000人

【参考】新型コロナワクチン接種数（4回目実績）について

新型コロナワクチン接種数（4回目実績）について

令和4年9月20日時点入力済み数値（保健管理課集計）

区 分	①対象者数 (人口)	②対象者数 (接種券送付済者)	③4回目接種回数	対人口進捗率 =③/①	対接種券送付者進 捗率=③/②
【高 齢 者】 65歳以上	188,000人	161,076人	127,442人	67.8%	79.1%
60歳以上65歳未満	39,000人	28,798人	16,081人	41.2%	55.8%
50歳以上60歳未満	92,000人	48,544人	12,079人	13.1%	24.9%
40歳以上50歳未満	102,000人	40,523人	8,235人	8.1%	20.3%
30歳以上40歳未満	81,000人	23,284人	4,733人	5.8%	20.3%
20歳以上30歳未満	77,000人	21,443人	3,550人	4.6%	16.6%
12歳以上20歳未満	53,000人	3,114人	174人	0.3%	5.6%
合 計	632,000人	326,782人	172,294人	27.3%	52.7%
【12歳未満を含む全人口に対する接種率】	705,000人	-	172,294人	24.4%	-

1 接種回数の数値はワクチン接種記録システム（VRS）のデータによる

2 対象者数はR4.1.1時点の住基人口、年齢区分はR4.1.1時点の年齢による。なお、対象外の12歳未満は73,000人

3 12歳以上20歳未満の欄の①対象者数（人口）53,000人には、1・2回目接種対象者の12歳以上18歳未満も含んでいる。

岡山市主催行事等の開催に関する方針について

岡山市主催行事等について、開催の目安を下記のとおりとする。

記

1. 催物開催の目安

	「感染防止安全計画」を 策定するイベント（注1）	「感染防止安全計画」を 策定しないイベント
人数上限（注3）	収容定員まで	5,000人又は 収容定員50%の いずれか大きい方
収容率（注3）	100%（注2）（注5）	大声なし（注4）（注5）：100% 大声あり（注4）（注5）：50%

注1：参加人数が5,000人超のイベントに適用。「感染防止安全計画」を開催2週間前までに
県に提出すること。

注2：安全計画策定イベントでは、「大声なし」の担保が前提

注3：収容率と人数上限でどちらか小さいほうを限度（両方の条件を満たす必要）

注4：「大声」を「観客等が、通常よりも大きな声量で、反復・継続的に声を発すること」
と定義し、これを積極的に推奨する又は必要な対策を十分に施さないイベントを
「大声あり」に該当するものとする。

注5：同一イベントにおいて「大声あり」「大声なし」のエリアを明確に区分して開催する
場合、それぞれ50%（大声あり）・100%（大声なし）

2. 適用日

- ・令和4年9月22日以降

今後の学校教育活動について

ウィズコロナを前提とした社会経済活動と同様に、児童生徒の成長にとって必要な学校教育活動を継続する観点から、次のとおり対応することとする。

1 学級閉鎖の基準について (緩和)

潜伏期間が短いオミクロン株の特徴を踏まえ、学級閉鎖の基準を以下のとおり変更する。

【観察期間】※学級内で感染拡大の有無を判断する期間

○感染者の最終登校日翌日から4日間の観察期間を 2日間とする

【学級閉鎖】※観察期間中に学級内で感染拡大のおそれがあると判断した場合

○新たな感染者の最終登校日翌日から4日間の学級閉鎖を 3日間とする

2 学校教育活動について (継続)

○基本的な感染症対策について

「三つの密」回避、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗い等手指衛生」、「換気」等の徹底

○学校生活について

マスクの着用については、体育の授業や運動部活動、登下校時には外す指導を継続する。

- ・授 業： あらゆる活動について実施
- ・学校行事： 宿泊学習も含め実施
- ・給 食： 対面会食を回避し実施
- ・部 活 動： 公式戦等を除き活動範囲を県内とし実施

3 家庭への協力のお願いについて (継続)

○ 児童生徒に発熱等風邪症状が出た場合は、無理をせず、早めに医療機関等受診していただきたい。

○ 同居する家族に、発熱等風邪症状がある場合や風邪症状を理由にPCR検査を受けている場合等は、その症状が回復するまでは登校について控えるようお願いしたい。

コロナ陽性者発生時の今後の対応について

1 未就学施設（保育園、認定こども園、市立幼稚園）について

(1) 家庭保育依頼を行う判断について

施設内での感染が疑われる事例が一定程度みられることから、今後も引き続き、1人目の陽性者確認後、家庭保育依頼（クラス休園、全休園等）を行うことを基本とする。

■背景 乳幼児の行動（接触の多さ）、幼児のマスクの効果は限定的（2歳未満は危険）、予防接種率の低さ（5歳未満は対象外）、家庭保育中の登園は、0人～半数程度までばらつきあり。

※家庭保育期間中も、保育が必要な園児を受入れることを原則とする。

(2) 家庭保育依頼を行う期間について

家庭保育依頼後3日以内に次の陽性者が出るケースが多いため、**家庭保育依頼の期間を現行4日間から3日間に短縮する。**

■最終登園日に発症し、家庭保育を依頼したクラスの状況（8/1～9/16（抽出））

3日間の家庭保育が有効であったケース：家庭保育依頼後3日以内に陽性者が発生	56%
4日間の家庭保育が必要だったケース：家庭保育依頼後4日目以降も陽性者が発生	6%
結果的に家庭保育依頼が不要だったと考えられるケース：家庭保育依頼後の陽性者が0人	38%

(3) 基本的な対応のイメージ

ア これまでの対応（令和4年1月～）

最終接触	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
陽性者（症状有）の最終登園	家庭保育依頼	家庭保育依頼	家庭保育依頼	家庭保育依頼	再開

イ 今後の対応（令和4年9月26日～）

最終接触	1日目	2日目	3日目	4日目
陽性者（症状有）の最終登園	家庭保育依頼	家庭保育依頼	家庭保育依頼	再開

(4) クラス休園等の状況（1週間ごとの推移）

8/5 過去最大	8/12	8/19	8/26	9/2	9/9	9/16 直近
51 施設	26 施設	29 施設	21 施設	20 施設	17 施設	10 施設

※対象施設 公私立認可保育園・認定こども園、地域型保育事業所、市立幼稚園（全235施設）

2 放課後児童クラブについて

クラブ内で感染者が確認された場合は、必要に応じて、当該支援単位への利用自粛の協力依頼、休所等の対応を取る。

※利用自粛については、小学校の扱いに準ずる。